

Singapore Investment News

シンガポールEDB 経済・投資ニュース
January–March 2011



<http://www.singaporeedb.jp>

特集1 エネルギー・化学産業

さらなる進化を遂げるエネルギー・化学産業

シンガポールは、エネルギー・化学産業における世界の中心的役割としての取り組みを進めています。シンガポールのエネルギー・化学産業は、2009年に生産額約3兆6,500億円(434億USD)を数え国内製造業のおよそ3割を占め、製造業の柱として経済成長をけん引しています。シンガポールは、世界におけるエネルギー・化学産業分野の可能性を広げつつ、生産力をさらに高めるため、第一線のグローバル拠点としての地位向上に努めています。

成長著しいアジアにおける最適なビジネス環境

急速な都市化、人口構成の変化、中所得者層の増加などを追い風に著しい成長を遂げるアジア新興市場では、エネルギーや化学製品の需要が高まり、これに伴い開発・生産拠点としてのシンガポールの世界的評価が高まっています。このため多くのグローバル企業が、製品の最終消費地に近く、投資プロジェクトを安全かつ確実に進められるシンガポールに拠点を設けています。

ここ数年、シンガポールをアジア・太平洋地域の営業拠点としてだけでなく、アジアを統括する経営上の本社と位置付ける企業が増えてきています。特殊化学品メーカー、独ランクセス社(LANXESS)は、中国やインドなどでの拡大する輸送需要に応えるため、2010年初めにタイヤ製品の主原料であるブチルゴム製造拠点をジュロン島に建設することを発表し、約48兆3,000億円(5,750億USD)を投じて年間生産量10万トンのゴム工場を建設しています。石油メジャーの英蘭ロイヤル・ダッチ・シェル社もシンガポール事業を拡大し、製造から販売、資金調達などをシンガポールで行っています。その一環として、2010年にはアジア地域最大の石油精製一体型の石油化学コンビナート「シェリースタン・ペトロケミカル・コンプレ

ックス(SEPC)」を完成し、シンガポール拠点を一層強化しました。このSEPCにより、高付加価値な投資がさらにシンガポール化学産業に集まると期待されています。

技術革新の推進

シンガポールは、グローバル市場における課題を見通して、研究開発(R&D)を中心とした知識集約型の経済立国を目指しています。技術革新を進めることで、既存の技術を単に導入するだけでなく、新しい技術や製品を生み出すための拠点作りにも力を入れています。一例として英化学大手ルーサイト・インターナショナル社(Lucite International)は、イギリスとシンガポールのR&D施設で10年にわたってアルファ法を研究し、有毒な腐食性化学物質を使わない環境に優しい技術を開発してきました。そして、この特許技術を採用した商用MMA(メタクリル酸メチル)モノマー製造拠点の第一号をシンガポールに立ち上げています。

シンガポールは、R&Dの全面的強化に向けて技術革新を進めています。2015年までに国家全体のR&D支出をGDPの



3.5%まで拡大することを目的に、地元企業の成長や研究用インフラ整備のための継続的な投資を予定し、世界の優良企業の誘致に努めています。最近では独バイエルマテリアルサイエンス社がドイツ以外で初となる機能性フィルムの研究開発センターをシンガポールに開設し、同国内の他の研究施設と提携して、伸びるアジアのエレクトロニクス製品需要に応える製品開発を進めています。

ジュロン島の競争力と持続可能性

技術進歩やR&D能力強化にあわせたインフラを整備するため、シンガポール政府はエネルギー・化学産業の集積地であるジュロン島の再開発を進めています。ジュロン島には専用インフラが整備されており、効率的な製品統合や、公共設備や第三者サービスの利用によるコスト削減を支援しています。現在、石油、石油化学、特殊化学プラントメーカーおよそ100社がジュロン島に拠点を設けています。

シンガポール政府はジュロン島の競争力をさらに高めるた

め、「ジュロン島バージョン2.0」という10年計画を策定し、石油化学産業の次なる成長に向けた新しい環境作りに取り組んでいます。産業界と連携し、エネルギー、酸素、水、土地といった貴重な資源をシステム全体で有効活用する新しいインフラ作りを進めています。そしてジュロン島自体を実証実験の場として、廃熱を生産プロセスに再利用したり、排出されたCO2を利用したりする、包括的かつ革新的なソリューションのための拠点作りを目指しています。

シンガポールはこうして、将来に向けたエネルギー・化学産業の継続的発展を進めています。EDB長官のレオ・イップは、エネルギー・化学分野の今後について、「より付加価値が高く、より生産規模が大きな事業が求められるようになり、ますます複雑化していくでしょう。我々が持続可能な化学産業の中心として世界の手本となれるよう努めてまいります」と意気込みを語っています。

*記事中の通貨換算レートは、1米ドル(USD)=84日本円(2010年12月19日現在)で算出しています

Singapore Business Topics

三井化学、樹脂改質材タフマー®の第2プラントをオープン

三井化学株式会社は2010年7月に、樹脂改質材タフマーのシンガポール第2プラントの竣工式を行いました。軽量の樹脂改質材のタフマーは、軟質成形材として幅広い用途で使用



されています。

今回の新プラントは、同社が誇るポリマー設計、メタロセン触媒、生産プロセスの技術を集結した世界トップクラスのタフマー製造拠点となります。年間生産能力は10万トンで、三井化学のエラストマー生産能力の3分の2を占めることとなります。建設コストは約168億円(2億USD)です。

EDBエネルギー・化学担当局長、リャン・ティンウィーは、「三井化学が新プラントを建設し、シンガポール事業を強化されるのを嬉しく拝見しています。これは、シンガポールが高い技術力を必要とする高価値製品の製造拠点として適していることを証明していると言えるでしょう」と述べています。

*記事中の通貨換算レートは、1米ドル(USD)=84日本円(2010年12月19日現在)で算出しています

旭化成ケミカルズ、タイヤ原料製造プラントの建設を発表

旭化成ケミカルズ株式会社は、省燃費かつ安全性能に優れたタイヤの原料となる溶液重合法スチレンブタジエンゴム(S-SBR)の製造プラントをシンガポールに新設すると発表しました。稼働開始時期は2013年6月の予定で、当初の年間生産能力は5万トンを目指しています。

世界的な環境規制の強化や環境意識の高まりに伴い、省燃

費タイヤの需要が拡大するなか、旭化成ケミカルズは合成ゴム事業を新たな成長分野として位置づけています。新工場は、成長著しいアジア内外の新興国向けの製品開発拠点としてのシンガポールの戦略的重要性を示すもので、同社初の海外S-SBR製造拠点となります。